

国民健康保険事業実施計画

《達成度/目標達成◎ 改善○ 変化なし□ 悪化▼》

| 実施内容・目標              | 策定時の値<br>(H28度) | 目標値<br>(R5度) | H29年度            | H30年度            | R1年度             | R2年度             | R3年度             | R4年度           | 達成度 | 成果   | 課題   |
|----------------------|-----------------|--------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|----------------|-----|--|--|
| 大目標① 健康寿命の延伸         |                 |              |                  |                  |                  |                  |                  |                |     |  |  |
| 平均自立期間（要介護2以上）の延伸    | —               | 延伸           | 男79.5歳<br>女85.2歳 | 男79.4歳<br>女85.5歳 | 男79.6歳<br>女85.6歳 | 男79.3歳<br>女86.2歳 | 男79.7歳<br>女85.1歳 | —              | □   | 男性はほぼ横ばいで推移。女性は令和2年度までは少しずつ延伸していたが令和3年度に短縮している。男女とも、H29年度値と比較するとほぼ横ばい。                           | 後述の主要6事業の充実や、介護予防・高齢者の健康づくりの一体的な実施に向けた協議と実行など、健康寿命の延伸に向けた更なる取り組みが必要。   |
| 平均余命の延伸              | —               | 延伸           | 男80.8歳<br>女87.5歳 | 男80.8歳<br>女88.2歳 | 男80.9歳<br>女88.3歳 | 男80.7歳<br>女89.3歳 | 男81.2歳<br>女88.4歳 | —              | □   | 男性は少しずつ延伸。女性は令和2年度は延伸していたが、令和3年度に短縮している。男女とも、H29年度値と比較するとほぼ横ばい。                                  |  |
| 大目標② 国民健康保険の医療費の増加抑制 |                 |              |                  |                  |                  |                  |                  |                |     |  |  |
| 総医療費の経年変化            | 650,212,735円    | 増加抑制         | 624,957,038円     | 566,347,069円     | 692,331,912円     | 655,837,317円     | 643,548,109円     | —              | ▼   | 年度によって増減がみられる。がんや血液透析等、高度医療や長期にわたる治療を要する疾患のある方が発生すると、医療費が高騰する。R3年度は総医療費は減少しているが一人当たりの医療費は増額している。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病予防対策の充実。（望ましい生活習慣についての意識啓発、健診・検診受診による早期発見、早期治療の推進など）</li> <li>重症化予防対策の充実。（必要な医療の継続など）</li> <li>医療費の増加の原因についての詳細な分析。</li> </ul> |
| 一人当たり医療費の経年変化        | 402,155円        | 増加抑制         | 416,522円         | 391,665円         | 493,084円         | 485,985円         | 495,799円         | —              | ▼   |  |  |
| 事業Ⅰ 特定健診の受診率向上       |                 |              |                  |                  |                  |                  |                  |                |     |  |  |
| 特定健診受診率              | 47.20%          | 60%          | 47.4%            | 45.7%            | 55.2%            | 54.0%            | 56.0%            | 48.1%<br>(暫定値) | ▼   | 令和元年度から「AIを活用した受診率向上事業」を開始。R4年度から健診予約者で未受診者への受診勧奨の実施。医療機関から患者への受診勧奨もご協力いただき、受診率は上昇傾向にある。         | <ul style="list-style-type: none"> <li>受託医療機関の増加に向けた働きかけ。</li> <li>治療中患者への働きかけ。</li> <li>40～50代の健診受診率の向上。</li> <li>退職等による新規国保加入者への受診勧奨。</li> <li>職場健診受診者の把握。</li> </ul>    |

国民健康保険事業実施計画

《達成度/目標達成◎ 改善○ 変化なし□ 悪化▼》

| 実施内容・目標          | 策定時の値<br>(H28度) | 目標値<br>(R5度) | H29年度  | H30年度  | R1年度   | R2年度   | R3年度   | R4年度   | 達成度 | 成果  | 課題  |
|------------------|-----------------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|---|---|
| 事業2 特定保健指導の実施率向上 |                 |              |        |        |        |        |        |        |     |   |   |
| 特定保健指導実施率        | 22.60%          | 60%          | 23.6%  | 34.4%  | 29.5%  | 22.6%  | 28.2%  | —      | ○   | 連続対象者が多く、声掛けをしても断られるケースが多い。<br>スタッフのマンパワー不足もあり、対象者に対して十分なアプローチが実施できていない。                        | ・保健指導や精密検査の受検までが特定健診であることの啓発。<br>・保健師、管理栄養士のスキルアップ。<br>・チーム体制での保健指導の実施。 |
| 事業3 がん予防対策       |                 |              |        |        |        |        |        |        |     |   |   |
| 胃がん検診の受診者数       | 411人            | 前年度より増加      | 375人   | 366人   | 384人   | 361人   | 369人   | 368人   | □   | 全国的に新型コロナウイルス感染症拡大による受診控えが生じている中、受診者数は近年はほぼ横ばいで推移している。  | ・内視鏡検査の検診化等、受診しやすい検診実施体制等の検討。   |
| 大腸がん検診の受診者数      | 983人            |              | 865人   | 974人   | 954人   | 976人   | 868人   | 922人   | ◎   | 令和4年度は、①検診料金無料化（対象：全対象住民）、②未受診者対策事業（対象：40～69歳の国保加入者）を開始。国保被保険者の受診者数が増加し、一定の成果が見られた。             | ・検診受診率向上のための取り組みの重点的実施の継続。<br>・精密検査受診率の向上に向けた取り組みの強化。                   |
| 肺がん検診の受診者数       | 1,249人          |              | 1,238人 | 1,141人 | 1,113人 | 1,141人 | 1,109人 | 1,082人 | ▼   | 高齢化に伴い、集団検診での受診数が年々減少傾向にある。個別検診での受診者数は微増傾向。   | ・地区巡回の継続。<br>・受診しやすい体制整備の検討。（集団健診へのセット化等）                               |
| 子宮頸がん検診の受診者数     | 332人            |              | 275人   | 258人   | 289人   | 283人   | 299人   | 245人   | ▼   | 島根県方式（細胞診とHPV検査の併用。双方の結果が「異常なし」なら、受診間隔は3年に1回でも可）により、受診間隔を空ける方もいる。小中学校のがん教育の中では、HPVワクチン接種とともに啓発。 | ・好発年齢である若年層（20～40代）に向けた啓発強化。<br>・受診しやすい検診体制の検討。                         |
| 乳がん検診の受診者数       | 471人            |              | 445人   | 409人   | 451人   | 427人   | 422人   | 395人   | ▼   | 国が推奨している受診間隔が2年に1回のため、増加と減少を交互に繰り返す傾向があるが、令和2年度以降は減少傾向。   | ・受診勧奨の工夫。（クーポン券対象者への重点的実施等）<br>・受診しやすい検診体制の検討。                          |

国民健康保険事業実施計画

《達成度/目標達成◎ 改善○ 変化なし□ 悪化▼》

| 実施内容・目標           | 策定時の値<br>(H28度) | 目標値<br>(R5度) | H29年度  | H30年度  | R1年度   | R2年度   | R3年度   | R4年度                | 達成度 | 成果  | 課題  |
|-------------------|-----------------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|---------------------|-----|---|---|
| 事業4 生活習慣病予防対策     |                 |              |        |        |        |        |        |                     |     |   |   |
| 精密検査受診率           | —               | 50%          | 40.7%  | 39.4%  | 44.0%  | 46.3%  | 44.7%  | 57.8%<br>(R5.2月末時点) | ◎   | 健診結果報告会での保健指導・栄養指導や、地区担当保健師による個別対応（訪問、電話、リーフレットを同封した個別通知）による受診勧奨の実施に加え、R4年度から1月末時点で未受診者へは、手紙、訪問による受診勧奨の実施により受診率が増加し成果が得られた。 | ・未受診者への個別勧奨。（個別通知等）   |
| 事業5 糖尿病重症化予防対策    |                 |              |        |        |        |        |        |                     |     |   |   |
| 糖尿病要指導者の精密検査受診率   | 41.90%          | 60%          | 44.6%  | 33.3%  | 41.4%  | 47.8%  | 54.4%  | 54.1%<br>(R5.2月末時点) | ▼   | 健診結果の返却後、3か月程度経過した後にまだ精密検査を受検していない者に対して、個別勧奨通知を発送。令和2年度からは、さらに電話での勧奨も実施したことで、精密検査受診率が上昇している。                                | ・要指導者への受診勧奨の継続。   |
| 糖尿病を起因とする新規透析移行者数 | —               | 0人           | 0人     | 1人     | 1人     | 0人     | 0人     | 1人                  | □   | 新規透析患者数は年間0～1件で推移している。  | ・透析までに至らないよう重症化予防の取り組みを推進。                                  |
| 事業6 医療費適正化対策      |                 |              |        |        |        |        |        |                     |     |   |   |
| ジェネリック医薬品普及率      | 76.92%          | 80%          | 78.07% | 85.74% | 86.27% | 86.81% | 86.81% | 86.72%              | ◎   | 全国的に、ジェネリック医薬品についての認知度が高まり、普及しているものと考えられる。  | ・医療費通知の継続（年4回）、後発医薬品自己負担軽減通知書の送付（年4回）などを継続実施。<br>・制度の周知を図る。 |